

全国建具展示会大臣賞を 目指しています



平成20年度福岡県版「現代の名工」
大川建具事業協同組合特選理事長

吉北建具木工所

吉北 聞志 さん（69歳）

昨年の全国建具展示会静岡大会に出品した吉北さんが建具、硝子戸「大自然」が入賞を果たした。焼津商工会議所会頭賞である。

火山の火と流れる水をイメージしてデザインした。薄く小さく切った杉材や南洋材を貼り合わせ、ユニークな文様に仕上げていく、独特の作品である。製品を見れば、吉北建具の

製品とすぐに分かる。「ありふれた物でなく、人が考えないようなアイデアをデザインに生かしていきたいと思っています。」といわれる。木製ドアを得意としているが、様々な建具製品を手がける、オールラウンダーでもある。

平成二十年度福岡県版「現代の名工」である。この表彰は、昭和四十七年から開始され、

「職種」名を原則に、毎年二十〜三十名が表彰されている。

吉北さんが誇りに思っていることがある。それは孫までの三代が同じ職場で現役で働いていることである。孫の斗海さんは二十二歳。大川インテリア塾で三年間建具職人としての基礎をみっちり学んだ。「私や息子が教えられること以外の貴重な技術や知識を多く



全国建具組合連合会会長賞
「子供部屋ドア(プラネタリウム)」



焼津商工会議所会頭賞
建具、硝子戸「大自然」



射水市長賞
「木製ブラインド」

学んだと思つてますよ。当人とつて非常に良かったと思いませんね。」

大川インテリア塾の建具関係の講師陣は三人(角講師、仁田原講師、木下講師)。すべて「現代の名工」で、五十年以上のキャリアを持つ人たち。「昔では考えられませんが。こうした人たちに教えてもらうことは！ 私たちの時代は、怒られながら、少しずつ技術を身につけていったのですよ。でもインテリア塾では優れた技術を親切丁寧に教えてくれるのですから…。昔はこうした技術を他人に教えることは決してなかつたですから。」

大川インテリア塾発足に際して、これらの講師陣の協力を取り付けたのは、実は吉北さんである。大川建具事業協同組合理事長として骨を折つた。三人の講師以外に、長野県在住の組子のエキスパート、横田栄一さんの招聘も行った。東京で会い、話し合った。最初は難色を示されたそうだが、「私がですか…。」「いえ…、是非お願いします！」。なんとか協力を取り付けた。今も横田さんは非常勤講師として、大川インテリア塾に貢献している。



孫の吉北斗海さん

旅行が趣味。友人、妻、会議所議員旅行、全国建具展の旅行。平均月一回は旅行をする。印象深かった旅行は？と聞いてみた。「全国展で初めて入賞した長崎、それに青森ですね。青森は飛行場から降りて、なんて空気のおいしいのだろうと思いましたよ。」

夢を聞いてみた。「全国建具展示会で入賞は何度もありましたが、トップの大臣賞はまだないのです。これを目指しています。仮に私がとれなくとも、息子、孫がとってほしいですね。」

吉北さんはまだまだ現役でがんばるつもりだ。

